

## 令和4年度東京都立農業高等学校全日制課程 学校経営計画

### 1 目指す学校

#### (1) スクール・ミッション

人とのつながりを大切にし、地域社会に貢献できる生徒、創造力を働かせ、意欲的に衣食住に係る提案をすることができる生徒、専門的な知識や技術を生かし、プロフェッショナルとして活躍できる生徒を育成します。

#### (2) スクール・ポリシー

##### ① グラデュエーション・ポリシー

課題を自ら探究し実践する中で、困難な問題に対しても粘り強く挑戦することができる目標達成に向けて周囲と協働し、地域社会に貢献することができる。

##### ② カリキュラム・ポリシー

基礎・基本を重視するとともに、実践的知識・技能の習得や体験的な学習を通して、主体的に学ぶ態度と思考力・判断力を持つ生徒を育てる「課題研究」をはじめ、様々な課題を他者と協働しながら自ら探究する学習を通して、困難な問題にも粘り強く挑戦し、自分の未来を切り拓く生徒を育てる。

##### ③ アドミッション・ポリシー

農業や家庭に関する学習内容に興味・関心があり、進路実現に向けて意欲的に勉学に取り組む生徒。部の活動や生徒会活動、地域での活動などに積極的に取り組み、それらを継続する意志のある生徒。

### 2 中期的目標と方策

#### (1) 進路指導の充実

組織的・計画的に進路指導を行い、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。

#### (2) 学力の向上

基礎・基本の定着を図る指導を行うとともに、主体的に学習に取り組む態度や思考力、判断力、表現力等の能力を育成する。

#### (3) 専門教育の充実

農業及び家庭のプロファイルに必要な基礎的な知識や技術を身に付けさせる。

#### (4) 言語能力の向上

読書活動等を推進し、コミュニケーション能力を向上させる

#### (5) 規範意識の向上

生命の尊重や規律ある生活等の指導を行うとともに、ボランティア活動への積極的な参加を促進し、社会性や規範意識を向上させる。

#### (6) 健全な心と身体の育成

体力向上、食育、心身の健康に関する指導を充実させ、健全な心と身体を育成する。

#### (7) 地域連携の推進

公開講座などを通して本校の教育内容を発信し、開かれた学校にする。

#### (8) 組織的課題解決能力の強化

OJTを通じた計画的な人材育成を行い、学校組織の対応力、課題解決能力を高める。

### 3 今年度の教育活動の目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ① 進路指導

- ア 授業や資格取得、学校行事、地域連携事業のすべてが生徒の職業観・キャリアプランニング能力と社会性を育てる機会であることを明確させ、3年間を見通した組織的・計画的な進路指導を行う。
- イ インターンシップ・職場体験等により勤労観・職業観を育成する。
- ウ 学科ごとに進路担当者を決め、生徒の進路希望を早くから把握し、必要な助言を行い、計画的な資格取得を支援し、必要な時期までに生徒各自の学習成果をまとめさせる。
- エ 補習・補講、外部教育プログラムなどを有効に活用して、基礎学力の向上に努める。
- オ 専科・普通科が協力して、就職・進学の徹底した個別指導を行う。
- カ 学年・進路部が連携して正確な公文書（調査書・推薦書）を発行する。

##### ② 学習指導

- ア 「スクール・ポリシー」を基に、グランドデザインを活用し、『夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル』を育成するための授業を行う。
- イ 生徒に取得させるべき資格等を明らかにした「農業高校技能スタンダード」に基づき授業を行う。
- ウ 読書活動や学校図書館を活用した調べ学習等を推進することにより、言語活動を充実させる。
- エ 習熟度別授業や少人数授業を実施して、基礎・基本の定着を図るとともに、宿題や課題、外部教育プログラムを活用して学習習慣の定着を図る。
- オ 自主的な研究や発表等に取り組みさせることにより、学校農業クラブ活動を充実させる。
- カ 「指導と評価の一体化」を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を通して各教科における資質・能力を育成する。
- キ GAP教育、HACCP教育、スマート農業、SDGsを取り入れた授業を推進する。
- ク 生徒の学ぶ意欲に応え、生徒の力を最大限に延ばすためのツールとしてICTや一人1台端末などのデジタル技術を活用した授業を全教員が推進する。
- ケ 全教員が統合型公務支援システム、Microsoft teamsの活用を推進する。
- ク 教員による年2回以上の相互授業参観を実施するとともに、年2回の生徒による授業評価アンケート、年6回以上の校内研修会を行い、教員の授業力向上を目指す。

##### ③ 生活指導

- ア 「スクール・ポリシー」を踏まえ、規範意識や公共の精神の醸成と向上を図り、社会人として必要な基本的なマナーやルールを身に付けさせる。特に授業遅刻などの時間の管理、授業規律の指導を徹底する。
- イ 「あいさつ」の習慣を定着させるために、毎学期生徒会を中心として「あいさつ週間」を設定するとともに、集会時やホームルームなどを通して継続した指導を行う。
- ウ 情報モラルの習得、生活安全に関する教育、災害発生を想定した避難訓練などの取組では、関係機関等と連携を図り、指導内容を充実させる。

##### ④ 特別活動・部活動

- ア 運動・文化部活動を活発化し、部活動の加入率の向上や各種大会での好成績を目指す。また、農業及び家庭の専門部の活動を一層推進する。
- イ 文化的な学校行事を充実させ、豊かな人間性や創造性を育成する。

## ⑤ 健康づくり

- ア 健康教育を推進し、生徒の健康に関する理解を深めさせ、生涯を通じて心身ともに健康で安全な生活を送る基礎を培う。
- イ 「TOKYOACTIVE PLAN for students」を参考に、「体力テスト」の結果を活用し体育の授業や学校生活全般を通じて、より積極的に運動やスポーツに親しむ生徒の育成に努め、体力の向上を図る。
- ウ 新型コロナウイルス感染症の学校における感染の発生や感染拡大のリスクを低減するため、健康観察、3密の回避、マスク着用等の基本的な感染症対策を徹底する。

## ⑥ 募集・広報活動

- ア 学校説明会・体験入学では、中学生や保護者の視点で企画・運営するとともに、ホームページ・ツイッター、インスタグラムを随時更新する。
- イ 中学校教員向けの技術講習会を開催するなど、教育内容を発信する。
- ウ 集団給食（高校生レストラン「たまごの木」）の充実を図り、保護者や地域住民と連携して食の安全・安心に関する啓発活動を展開する。

## ⑦ 地域貢献・地域交流

- ア 生徒が学んだ農業・家庭の専門技術を地域社会に還元する取組を行う。
- イ 防災活動支援隊を編成し、地域と連携した防災訓練や避難所の設営訓練などの地域貢献活動を取り入れ実施する。

## ⑧ 学校経営・組織体制

- ア 自律経営推進予算を中・長期的な視点から計画的・効果的な執行に努めるとともに、経営企画室を中心とした適正な予算執行、施設管理を行う。
- イ 積立金等の納入を適切に管理し、延滞者を減らし、未納者を0（ゼロ）にする。
- ウ 経営企画室、各分掌、各委員会の連絡を密にし、組織的な課題解決力を強化する。
- エ 個人情報紛失事故の根絶に向けて、定期的な校内研修を通じて教職員の意識向上を図る。
- オ 通級指導が開始することに伴い関係機関と連携しながら校内の支援体制の構築に努める。また、特別な支援を必要とする生徒に対して、生徒個々に応じた指導内容・指導方法を構築する。
- カ 全教育活動から体罰等を根絶するために、次の取組を行う。
  - ・体罰を根絶するため、サービス事故防止月間等を活用して教員研修を実施する。
  - ・体罰をチェックする機能を強化するとともに、体罰を容認する風土を作らない。
  - ・体罰のない部活動を推進する。
- キ いじめを防止するために、次の取組を行う。
  - ・教員の指導力向上とスクールカウンセラーの活用等、いじめ防止に組織的に対応する。
  - ・早期発見のために、定期的な「生活意識調査」を実施し、いじめの早期発見に努める。
  - ・いじめを把握した場合には、対応方針を策定し、学校全体で取り組む。
  - ・重大事態が発生した場合、保護者、警察署等の関係機関と連携し、被害生徒を守り通す。
- ク 自殺予防のために、担任等との面接など教育相談活動を通して生徒の心の安定を図る。
- コ 月当たり在校時間が45時間を超える教職員を0（ゼロ）にするなど、教職員のライフ・ワーク・バランスの取組を推進する。
- サ 生徒が将来への希望を持ち、意欲を持って自ら学び伸びるために、「教育課程推進部」を中心に特色化・魅力化に向けた取組を推進する。
- シ 学校通信、進路通信、学年通信、学科通信、保健通信などの分掌通信の発行を充実させる。

## （2）今年度の重点目標と方策、数値目標

- ① 生徒の進路希望実現 進路希望実現率 90%以上

- (実績 H29 : 95%、H30 : 94%、R1 : 97%、R2 : 92%、R3 : 89%)
- ア 生徒の進路実現のための論文指導や面接指導の充実を図る。
- イ 「明るい笑顔、聞こえる挨拶、聞こえる返事」を全教職員が意識して指導する。
- ② 学校満足度の向上 生徒の学校満足度 90%・保護者の学校満足度 90%
- (生徒実績 H29 : 95%、H30 : 90%、R1 : 91%、R2 : 95%、R3 : 92%)
- (保護者実績 H29 : 99%、H30 : 96%、R1 : 97%、R2 : 95%、R3 : 94%)
- ア 日本農業技術検定、家庭科技術検定、漢字検定、英語検定などの資格取得に向けた指導を充実させるとともに、アグリマイスター制度を活用し、生徒の資格取得への意欲向上を図る。
- イ 学校の特色化・魅力化に向けた取組を推進する。
- ③ 組織的な生活指導体制 身だしなみ違反生徒ゼロ、自転車事故ゼロ
- (身だしなみ違反生徒実績 H29 : 90名、H30 : 90名、R1 : 173名、R2 : 10名、R3 : 10名)
- (自転車事故実績 H29 : 0名、H30 : 0名、R1 : 0名、R2 : 0名、R3 : 0名)
- ア 身だしなみ指導を年間5回実施する。
- イ 生徒の規範意識を高めるために、自転車マナー、交通安全や薬物乱用防止、情報モラルに関する講演など各学期1回以上実施する。
- ④ 広報・募集活動の推進 全学科の入選応募倍率：推薦2.5倍、一次1.3倍
- (実績 H29 農業科：推薦2.20倍・一次1.16倍、家庭科：推薦3.30倍・一次1.56倍)
- (実績 H30 農業科：推薦2.37倍・一次1.35倍、家庭科：推薦4.40倍・一次1.74倍)
- (実績 R1 農業科：推薦2.30倍・一次1.24倍、家庭科：推薦3.15倍・一次1.40倍)
- (実績 R2 農業科：推薦1.90倍・一次0.93倍、家庭科：推薦2.95倍・一次1.16倍)
- (実績 R3 農業科：推薦2.19倍・一次1.09倍、家庭科：推薦2.70倍・一次2.22倍)
- ア 学校説明会・学校見学会・体験入学を、中学生や保護者などの視点で企画・運営する。
- イ 夏季休業中に中学校教員を対象にした技術研修会等を行う。
- ウ ホームページの随時更新、中学校への出前授業等を行い、教育内容を発信する。
- エ 学校農場の管理を充実させ、来校者が見学しやすい環境を維持する。
- ⑦ 地域との連携事業の推進と充実 地域連携事業実施回数 30回
- (実績 H29 : 30回、H30 : 30回、R1 : 30回、R2 : 0回、R3 : 20回)
- ア 防災訓練等を通して防災意識を高め、避難所運営など地域に貢献できる人材を育てる。
- イ けやき並木のケヤキの更新等、府中市との連携を推進する。
- ウ 地域行事に参加し、教育活動の理解を得る。